



# 銀座線(商業エリア)駅デザインコンペ 編

三越前、日本橋、京橋を対象とした銀座線(商業エリア)駅デザインコンペは、112作品から最優秀賞1点を選定し、7月25日(金)銀座線京橋駅に直結した東京スクエアガーデン内の東京コンベンションホールで結果発表と表彰式を行いました！今回は、結果と表彰式の様子についてご紹介します。

## 駅デザインコンペ 商業エリアの結果

東京メトロ銀座線(商業エリア)駅デザインコンペは、計112作品の応募をいただき、厳正なる審査の結果、ノンスケール株式会社の包謹慈(パオ ジンシ)さん、陳彦希(タン エンシ)さんの作品を最優秀賞として選定しました。



最優秀賞 受賞作品



表彰式の様子

最優秀賞のほかに優秀賞として、株式会社ワイピーデザインの高橋拓也さん、瀬口志朗さんの作品1点を選定し、入選として株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所の清水悟巳さんの作品をはじめとした計7作品を選定しました。その他、「総合的な評価とは別に、取組の姿勢や提案の中に極めて質の高い要素、あるいは個性豊かな要素があり、それらを評価できる作品」として、委員長及び外部委員3名から特別賞4作品を選定しました。また、入選には至りませんでした。今後の活躍が期待される学生を対象に学生賞2作品を選定しました。

### 受賞一覧

最優秀賞	ノンスケール(株)	包謹慈、陳彦希
優秀賞	(株)ワイピーデザイン	高橋拓也、瀬口志朗
入選	(株)ジェイアール東日本建築設計事務所	清水悟巳、堀口智香、五十嵐美穂他2名
	川添純一郎建築設計事務所	川添純一郎、植村卓也
	スタジオウエスト	本橋喜一、森田勝己、浅野菜摘他1名
	東京大学大学院	TAN BOON CHIOU
	東京理科大学大学院	村松佑樹
	(株)イリア	鈴木一成、河村慧
	(株)エフ・デザイン	松久保秀昭、嶋田佳昂他8名

特別賞 (入江委員長選定)	東京都立産業技術高等専門学校	青木孝憲
特別賞 (紺野委員選定)	東京都庁	荒木智香子、小澤真知子、持田奈美他1名
特別賞 (佐藤委員選定)	東京工業大学	近藤舜介、大松駿
特別賞 (松下委員選定)	日本大学	高橋謙太、地曳弘太、佐々木皓平
学生賞	芝浦工業大学	門井慎之介、堀口拓、鈴木海
	慶應義塾大学	堀江季良、笹村佳央

(敬称略)

## 最優秀賞受賞者 インタビュー

最優秀賞を受賞されたノンスケール株式会社の包謹慈(パオ ジンシ)さんは、「嬉しいです。事務所の先輩、チームメイトに『ありがとう』と言いたいです。私は台湾人ですが、日本のことがとても大好きで、日本の文化も大好きでしたので、ぜひ応募したいと思いました。コンペを進めていく中で、また新しい日本を発見できて、とても嬉しく思っています。」と率直なお気持ち、感想をいただきました。



インタビューに答える包謹慈さん(左)



これまでも、そして、これからも。  
もっとうれしい東京に  
<http://tokyometro10th.jp/>

東京を走らせる力



## 最優秀賞作品 コンセプトは「PACK-AGE」

最優秀賞となった包謹慈(パオ ジンシ)さんの作品は、全体のコンセプトを「PACK-AGE」として、積み重ねられた時・物・心・街を大切にギフトボックスに詰めて、新たな時代に紡ぎ伝えることとしています。今回の商業エリアのコンペでテーマとしたユーザー像と「望ましい経験」については、フランス人の30代夫婦が、日本旅行の中で脳裏に焼き付けた各駅のデザインを経験としてフランスの友人への「ギフト」とすることを提案しています。

各駅のデザインについては、時・物・心・街のコンセプトに則り展開されています。

時とは、「経験と未来」を表し、三越前駅では、現在でも地上の中央通りを構成している「列柱」をテーマにしています。

物とは「継承されるもの」を表し、三越前駅では、三越に代表される歴史的な要素から、「着物」をテーマとしています。

心とは、「温められる心」を表し、三越前駅では、地上を構成する「列柱のリズム感」をテーマにしています。

そして、これらの要素を銀座線のラインカラーであるオレンジ色の光のリボンで結び、街としてひとつの空間を構成しています。



三越前駅におけるコンセプトの展開



中央通りの列柱



三越前プラットホームイメージ



三越前改札周りイメージ

## 審査委員によるコンペの総括

<入江健二審査委員長講評(東京地下鉄株式会社 常務取締役)>

前回の下町エリアとは異なり、商業エリアでは地下鉄のユーザー像を設定し、駅での「望ましい経験」を応募の要件とし、また若い方にたくさん参加していただきたいと学生賞を設けました。その結果、若い方から多くの応募を頂き、多くの学生の方が受賞されました。皆さん商業エリアの各駅の特徴を非常によくつかまれて、そして経験というものをデザインに表現するというのも、大変よくできていたと思っております。



入江委員長

<紺野 登委員講評(多摩大学大学院教授兼知識リーダーシップ総合研究所所長)>

専門家だけでなく利用者の方々からもアイデアが寄せられたことは、非常に素晴らしいことで、新しいコミュニケーションのあり方として我々にとっても新しい経験となりました。今回は経験の質ということで、いろいろなキーワードが出された中で、共通するところとして三越前は買い物、日本橋は水、散策、京橋はオフィス、石など期待される経験の価値が凝縮されて、本当に素晴らしいアイデアの集合体となったと思います。



紺野委員

<佐藤 卓委員講評(佐藤卓デザイン事務所 代表)>(映像によるコメント)

まず地下鉄のデザインについてコンペを行うことが画期的で、非常に素晴らしいと思います。公共の施設に対する意識を社会全体で高めていくという役割をこのコンペが担っています。コンペを実施してみると、とても若い方が多く応募されて、これは非常に素晴らしい傾向であります。こういったコンペを通して、駅が非常に良い方向へ向かうことを願っています。



佐藤委員(映像)

<松下美紀委員講評(松下美紀照明設計事務所 代表)>

地下の空間は自然光が入ってきませんので、照明や明かり、光がとても重要になります。光には形がないので、何か対になるものがりますが、今回皆さんには、その対になる天井、壁、素材等全てのことをまとめて作品にさせていただきました。不特定多数の方が使う場所ですから、照明というのは明快でわかりやすい必要があり、前回に比べて、照明がサインや利用者を誘導する心理的な要素となるなど非常にたくさんのアイデアが見受けられました。



松下委員

## コンペ作品の今後の展開

商業エリアについては最優秀賞作品をはじめ、皆様からご提案いただいた様々なアイデア等を十分に活かしながら、エリア及びステーションデザインコンセプトを設定し、実施設計に着手していきます。また、既にコンペを実施した下町エリアについても実施設計を進めており、順次工事着手してまいります。下町エリアと商業エリアは銀座線開業90年となる平成29年度(日本橋は平成30年度)までの完成を目指して進めていますので、今後ご期待下さい。